

日本チェコ友好協会からのお知らせ

2022年4月8日

今年の東京の桜はひととき美しく感じられました。皆様のお花見はいかがでしたでしょうか？

ヨーロッパではイースター(復活祭)の時期で、今年は4月17日がイースター、18日がイースター・マンデーになります。いつもなら明るい春ですが、2月に始まったウクライナでの戦争は依然として続いています。近隣諸国へのウクライナからの避難民は400万人を超え、チェコにおいても30万人を受け入れ、いろいろな支援活動が行われています。当協会といたしましても、如何なる支援活動が可能か検討してまいります。

ホルプ先生講演会 5月14日(土曜日)開催

1月のオンライン講演会では「2022 チェコとEUをめぐる5つのテーマ」と題し、チェコ総選挙を踏まえたフィアラ政権の発足、オーストリア、ハンガリー、スロバキア、ポーランドなど近隣諸国の政治の流動化、ドイツの3政党連立による新政権発足、2022年の前半のEU議長国のフランス大統領選挙の行方と6月からEU議長国を引き継ぐチェコ共和国の役割、更にはリアルタイムで行われていた米ロ、EU/ロシアによるウクライナを巡る安全保障についてのハイレベル協議等に言及され、2022年前半に欧州情勢が大きく変動する可能性があることを示唆されました。この講演後に突如としてロシアによるウクライナ侵攻が開始され、欧州は第二次世界大戦後最も緊迫した情勢となりました。この新たな状況下のチェコと欧州について、ホルプ先生に再びオンライン講演をしていただくことになりました。

日時： 2022年5月14日(土) 18:00よりオンライン形式(Zoom)にて開催

演題： 『中欧諸国の政治状況』

費用： 会員 1,000円 非会員 2,000円

申し込み： メール宛先 czfriend@outlook.jp

または協会ホームページより、申込者名記載の上お申し込みください。(定員100名)

* 前回の講演内容はホームページでご覧いただけます。

年会費納入のお願い

新年度を迎えるにあたり、会費の納入をお願い申し上げます。

■年会費 個人会員 ¥5,000 家族会員、学生会員 ¥2,500 法人会員 ¥20,000/1口

■振込先 郵便振替(同封) もしくは

①三井住友銀行 渋谷駅前支店 普通 3511197 日本チェコ友好協会 会長 高橋恒一

②三菱UFJ銀行 渋谷支店 普通 3524843 日本チェコ友好協会 会長 高橋恒一

第18回通常総会について…

例年春に開催している通常総会開催につきましてはこの2年間、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、郵便による総会として参りました。出来ることなら本年度は会員が一堂に会する従来の通常総会を開催したいと考えておりますが、現状ではまん延防止が解除されたものの、感染状況はいまだ樂觀できないようです。

つきましては、本来なら日時、会場をお知らせする時期ですが、さらに一カ月ほど様子を見たいと思います。開催形式などを決定し次号でご案内させていただきます。何卒ご了承ください。

チェコ語講座 オンラインです！

協会発足以来続いているチェコ語講座はオンラインで開催しています。通学に時間が取られない、集中できると受講の皆さんからは好評です。今後も語学講座はオンラインで継続する予定です。ご多忙な方、遠方の方でも手軽にご参加いただけます。パソコンがあれば簡単に聴講できる、Zoom システムを使用しています。この機会にどうぞお試しください。

(お問い合わせ:090-3241-7256 担当:村田 Zoom が初めての方もどうぞお気軽に！)

費用: 全クラス 5 回 1 万円(途中参加の場合は 1 回 2,000 円として残額)

開催日: 毎週水曜日(祝日に当たるときは休講です。)

中級継続クラス:18 時から 19 時半、 入門クラス:19 時半から 21 時(現在休止中。)

チェコ情報: チェコ共和国 ウクライナ避難民 30 万人受け入れ

チェコ共和国はウクライナ避難民を積極的に受け入れています。チェコ TV-CT24 の報道によると、本年 3 月 7 日時点で 10 万人、3 月 10 日には 20 万人に達し、政府はあまりの避難民の多さに非常事態宣言を出すと共に避難民キャンプの建設を急ぎ、17 日迄にはさらに 7 万人を受け入れ、23 日には 30 万人に達しています。各都市にはウクライナ援助センターが設置され避難民の登録、宿泊所、健康保険などの支援をおこない、17 日にはウクライナ問題処理のための特別法 Lex Ukrajina が国会で制定され避難民に 5,000 コルナの一時金支払い、居住許可や医療援助、さらに労働許可なくして仕事につくことが出来るように取り決めていきます。

ウクライナ避難民 4 百万人、近隣諸国の受け入れ状況



東京のチェコ大使館では 3 月 15 日にウクライナの音楽家ナターシャ・グジーを招いて初の「チャリティ・コンサート for ウクライナ」が開催されました。コンサートの模様はチェコセンターのホームページを通じて YouTube 配信中です。

<https://tokyo.czechcentres.cz/ja/blog/2022/03/concert-for-ukraine>

チェコセンター情報:

パトリック・ハーブル作品展「MY PREVIOUS LIFE」

会期: 2022 年 4 月 22 日(金)~6 月 17 日(金) ※土日・祝日は休館。6 月 11 日(土)は特別開館。

開館時間: 10:00~19:00 <https://tokyo.czechcentres.cz/ja/program/patrik-habl>

会場: チェコセンター東京 (チェコ共和国大使館内) 入場無料 主催: チェコセンター東京

もう覧になりましたか? 日本チェコ友好協会の新ホームページ

画面構成を一新した新しい HP を立ち上げました。

URL は従来と同じく <http://www.czechfriend.jp/> です。

講演会の申し込みや会員の皆様から理事会へのコメントをいただく ページもあります。スマホからも利用可能です。



阿部賢一先生の講演「ヴァーツラフ・ハヴェルの演劇世界を聴いて」

高橋恒一

24日に阿部先生が「現代チェコ文学入門」の第2回として「ヴァーツラフ・ハヴェルの演劇世界」と題したオンラインの講演をしてくださいました。35名の皆様に参加いただいた今回の講演では、ハヴェルの1960年代と70年代の代表作である「通達」と「謁見」を中心に富豪だった彼の祖父がプラハの中心部に建設した総合文化施設ルツェルナや彼の演劇が上演された劇場、更には実際の公演の舞台等についての映像データをふんだんに用いて、彼の演劇についての考え方とその特徴を分かり易く解説して頂き、とても参考になりました。素晴らしい講演をしていただいた阿部先生に改めて深謝申し上げ以下に概要を報告します。



@Wikimedia Ondřej Sláma

ヴァーツラフ・ハヴェルは、20世紀から21世紀にかけて戯曲家、ディシデント(反体制派)、政治家の3つの顔が交錯した波乱万丈の人生を送った。元々は演劇よりも映画に関心があったが、その望みはかなわず、1959年に父親の紹介によりABC劇場(ルツェルナの近くにある小劇場)で裏方として働き始める。そこで喜劇俳優のヤン・ヴェリフとの運命的な出会いがあり、演劇に目覚め、演劇が現実の社会に大きなインパクトを与えうるものであることを知り、演劇の道に進むことを決める。1960年に欄干劇場(カレル橋近くの小劇場)に移る。

裏方で働きながら、戯曲を書き始め、「ガーデン・パーティー」(1963年)、「通達」(65年)、「集中の困難」(68年)等の戯曲を発表し、欧米諸国でも名前を知られるようになる。ここで戦後プラハの小劇場文化の牽引者であり、観客に訴えかけ

る「アピールの劇場」の理念を提唱したイヴァン・ヴィスコチル及び演出家のヤン・グロスマンと出会い、二人から色々な影響を受けながら自らの演劇世界を築いていく。

1965年7月26日にヤン・グロスマンの演出により欄干劇場で初演された「通達」のあらすじは次のとおり。

十二場からなるこの作品は、誤解をもたらすことのない、きわめて精確な人工言語プティデペがとある役所に導入されたことで翻弄される人びとの様子が描かれている。熱血漢のグロスは局長であるというのに、人工言語の導入を知らされていない。導入を秘密裏に進めていた局長代理バラッシュは、無言のクプシュとともに、グロスの包囲網を張り巡らす。かたや、極めて難解なプティデペの授業が行なわれ、翻訳センターの面々も登場するが、前者では言語の構造についての疑似学問的な解説がなされ、後者では翻訳とは無関係な日常会話ばかりが披露される。グロスはバラッシュと役職を交代し、プティデペの導入を阻止できたものの、今度はホルコルという新しい人工言語が導入さる.....。

この劇は、登場人物たちが、一生懸命言葉を発しているにもかかわらず、各人の関心事が異なるため、言葉がかみ合わず、コミュニケーション不全に陥っている不条理な状況を描いている。ハヴェルは富豪の家に生まれたが、社会主義体制になると、一家の財産は没収され、自身もブルジョア出身者として希望する大学への進学を認められなかった。自分が望んでいたものが一瞬にして手の届かないものになってしまった体験を持つハヴェルにとりベケットやイオネスコに代表される不条理演劇は彼の世界観と共鳴するものであり、彼の演劇表現は、彼が日常的に感じていた不安定の感覚と密接に結びついていたと考えられる

1968年までは、ハヴェルの作品は欄干劇場で上演されていた。しかし同年8月にワルシャワ条約機構軍がプラハを占領し、「正常化」の1970年代になると彼の作品は、劇場でほとんど上演されないこととなる。正常化の時代に当局から睨まれた演劇関係者は、自宅や別荘に少人数の観客を集めて作品を発表するとともに、生きていくために他の職業につかざるを得なくなる。ハヴェルもこうした「自宅劇場」を利用した一人であり、また1974年から北ボヘミアのピ

ール工場で働くことになる。このビール工場のすぐ近くに彼は別荘を持っており、時々親しい友人たちを呼んで作品を発表した。この自宅劇場での発表のために書いたのが、1975年の「謁見」であり、そのあらすじは以下のとおり。

作家ヴァニェクは、何らかの理由で自作の発表ができず、あるビール醸造所で肉体労働をしている。ある日、上司の醸造長に呼び出されたところから、作品は始まる。醸造長はビールを飲めないヴァニェクに対して、ビールを次々と勧めながらあれやこれやと脱線しながら、二人の会話は続く。この劇は分かり易く、二人のやり取りが非常に面白いことから、ハヴェルの戯曲の中でも人気の高い作品となっている。なおこの戯曲については、ハヴェルが朗読したレコードが北欧を経由してチェコに持ち込まれ、多くの人々がそれを聴いたとのエピソードが残されている。

ハヴェルは、「ABC 劇場」「欄干劇場」「自宅劇場」を経て、1989年に大統領となり、「政治」という劇場・舞台へ出ていくこととなる。彼はそれよりずっと前の1968年に書いた「演劇の特殊性」という文章で「今・ここ」で上演される演劇は、極めて特殊なものであり、個人個人ではなく「共同体の一員である人間の関心と問題」を扱うという点で政治性が強いと指摘していた。劇作家ハヴェルがABC劇場時代から一貫して最重要視したのは、演劇が現実の社会と繋がり、これにインパクトを与えることであったと考えられる。

チェコ料理 第11回 ビーフロールの煮込み「スペインの小鳥」

Španělský ptáček

チェコ料理研究家 村田祐生子

え！と思うような料理名ですが、小鳥を料理するわけではありません。しかもスペイン風でもありません。不思議な名前ですが、セージ、ピクルス、ゆで卵などを薄く伸ばした牛肉でしっかりとロールして煮込むチェコ料理の代表格の一つで、お米によく合い、日本人に食べやすい一皿です。友好協会の料理教室で「ビールに合う料理を教えてください」とリクエストしたときにシェフのカルピーシェックさんが教えてくださいました。出来上がりを改めてピルスナー・ウルケルに合わせて試食しましたが、やはりチェコビールとの相性は最高です。

ポイントはお肉の選び方です。脂肪分が少ない方が良いので、ランプが使われます。出来るだけ直径の大きい輸入のランプステーキ肉が向いています。観音開きにし、ラップで挟み、肉たたきで(すりこ木でもできます。)たたきのばしてください。用意した具は巻き寿司の要領なら簡単です。手間と時間はかかりますが、チェコの味が再現できます。ぜひお試しください。



<材料> 2人分

牛ランプ肉ステーキ用 (1人前 120グラムくらい)… 2枚
玉ねぎ…大1個、ベーコン…2枚、ピクルス…大1本、固ゆで卵…半分、
ウインナーソーセージ…2本、マスタード…適量、ピクルスのつけ汁…大さじ2、
小麦粉…大さじ1、塩 コショウ…適量

<作り方>

- 1) ステーキ肉はラップ2枚に挟み、肉たたきで25センチ×20センチくらいにたたきのばす。小さい肉は厚みの半分に包丁をいれ、観音開きにしてからたたく。玉ねぎは半分にし、詰め物にする1センチ厚さのくし形を2つとる。残りはソース用にみじん切りにする。ベーコンは1枚を半分に切り、残りは5ミリ幅に切る。ピクルスは縦に半分に切る。ゆで卵は半분을さらに半分にする。
- 2) 下のラップを付けたまま肉に塩、コショウをして、マスタードを上面に塗る。
- 3) 2)上の左側に半分のベーコン、くし形玉ねぎ、ゆで卵、ピクルス、ソーセージの順にコンパクトにならべる。ラップを利用して具がはみ出さないようしっかり巻く。巻いたらロースト糸でしぼる。
- 4) 煮込み鍋にサラダオイルを熱し、みじん切りの玉ねぎを炒める。柔らかくなったらベーコンも加え、透き通るまで炒める。ここにロールを入れ、表面に焼き色を付ける。
- 5) 4)の鍋に水を600ccほど加え、圧力なべなら30分、普通の鍋なら1時間ほど(水が足りなければ足しながら)煮込む。
- 6) ロールを取り出す。煮汁を少し煮詰め、ピクルスのつけ汁と小麦粉を50ccの水で溶いたものを加えとろみがつくまで煮る。
- 7) ロールは半分にし、ライスと盛り合わせ、ソースをたっぷりかける。

